

1 自己評価及び第三者評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2894900105		
法人名	社会福祉法人あそう		
事業所名	グループホーム緑風の郷木の香		
所在地	朝来市山東町一品424		
自己評価作成日	令和6年5月23日	評価結果市町村受理日	令和6年7月5日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kai.gokensaku.nhl.w.go.jp/28/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利法人 福祉市民ネット・川西
所在地	兵庫県川西市小花1-12-10-201
訪問調査日	令和6年6月12日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

徐々にコロナ禍から普通の生活を取り戻しつつある中、自施設ではまだまだ面会や外出が完全緩和とはいかず、外部との関りが緩やかに緩和されつつある現状です。入居者には施設内でも季節感を感じられ、また安全で元気に生活してもらえるよう、嗜好を聞きながら食の楽しみづくり、野菜や花を育て生きがいつくり、手先や頭、体を動かす機会づくりを日々行っています。近年重度化が進み介助率が上がっている中、転倒や危険のリスクが高まっているため、居室環境や生活空間の見直しをしながらリスク回避につなげたりと安心して過ごせるようにしています。

【第三者評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、市の最南に位置し、ツバメが賑やかに行き交い子育てをする自然豊かな環境にある。福祉の「心」を礎として、4つの法人理念と「ありがとう」「お願い」を共通認識に掲げ、今年度の目標「やりたいことを形にして入居者の楽しみにつなげる」事を目指している。廊下やリビングには、利用者の手による、季節感あふれる貼り絵や飾り物を展示し、中庭の花や季節の野菜の世話を日々の日課とする利用者もいる。また、広いリビングで自分がしたい事出来る事に、職員の助けを借りて取り組む姿も見える。館内は利用者が心地よく過ごせるように、温度湿度が管理されている。大部分の職員が正職で雇用されており、ユニットリーダーのもと、利用者への柔軟な対応を心掛けている。今後も、利用者の穏やかな生活を維持していけるように、職員一丸となり努めていただきたい。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および第三者評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己 者 第	三	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人の理念をもとに、安心安全な支援を心掛けており、職員間では「ありがとう。お願い」を合言葉に助け合いながら日々実践に取り組んでいる。	法人の福祉の「心」を礎にした理念と共に事業所の年間目標を掲げ、実践に向けた職員の共通認識として「ありがとう」「お願い」を意識した支援に努めている。	事業所独自の理念を職員で検討し、支援につなげる方法も検討されてはいいかがか。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍の延長から未だ面会や外出が完全緩和に至らず、交流が図れていない現状である。健幸ポイントを貯めて地域(こども園、自治協)に提供をした。	事業所は自治会には加入していないが、自治会の広報誌が事業所に届き地域の情報を得たり、年4回事業所発行の広報誌を地域全戸に配布し情報発信している。市の「健幸ポイント」を提供し合ったり、地域の文化祭に利用者の作品を出展する等の交流をしている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	実際に接点を持ち行うことはできなかったが、広報誌を通し認知症の人の理解や支援等について発信は行った。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ禍があけ対面での会議に戻り、新たなメンバーに一新もしたため、日々の取り組み等報告や拘束等一般的な意見など求めたりしている。	昨年7月から参集型での運営推進会議に移行し、家族代表や市の担当者、民生委員や老人会代表、区の代表者等の参加で2か月毎に開催している。地域代表者より意見や質問があり、丁寧に応えているが、市の担当者や委員、家族等に議事録の配布はしていない。	会議報告に、ヒヤリハットや事故報告、平均要介護度、平均年齢など利用者情報を記載されてはいいかがか。 議事録は、次回開催時に全委員に配布されてはいいかがか。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	毎月の実績報告をし、情報等はメールや電話で連携をとっている。また連絡会等を活用し、GHの実情を報告や協力を求めている。	市とのやり取りは電話やメールで行っている。グループホーム連絡会が2か月毎に開催され、年数回、市の担当者が参加して情報を得ている。近隣の市も含めて年3回の合同研修会を開催し、外部講師を招いたり、事業所ごとに担当者を決め講師役を担い交流の機会になっている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	拘束を理解したうえで極力目指しているが、実際には見守れない人数配置の時間帯等にはやむを得ず施錠をしている時もある。	毎月、法人代表で構成された、リスクマネジメント委員会に事業所のユニットリーダーが参加している。玄関は開錠しているが、時にユニット入り口を閉める事はある。外に出たい利用者には、一緒に敷地内の散歩に出ている。ヒヤリハットの報告書用紙の記録項目が多い。	現場職員を含め事業所独自の、身体拘束適正化委員会を設置し、記録を残して欲しい。 ヒヤリハットの記録用紙を簡素化し、書きやすい工夫をして欲しい。	
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待について再確認の機会を作り、特に言葉かけ、不快な支援をどう切り替えるかを意識して考える機会とした。	上記同様、法人構成のリスクマネジメント委員会に代表が参加している。気になる言葉掛けがあれば状況に応じて注意を促している。毎年産業医による職員のメンタルストレスチェックを行っている。虐待防止のマニュアルはあるが指針の整備がない。	身体拘束適正化同様、事業所独自の委員会を設置し議事録を残して欲しい。 虐待防止の指針を整備して頂きたい。	

自己	者第	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(7)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	知識としてパンフレットで確認したが、研修などは行えていない。現時点で利用事例はない。	現在制度を活用している利用者はいない。パンフレットを職員間で確認した事があり、言葉の理解は得ているが研修の機会はない。	運営推進会議を活用し、市職員を講師に研修会を実施し、伝達研修に繋げるのも一つの方法ではないか。
9	(8)	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居手続きや退居前の話し合いなどは時間を設け十分に意向を把握しながら説明や理解に努めている。経済面や不安面にも個々に電話等の相談も受けて対応している。	契約は、事前の見学や面談により、利用者や家族の納得を得て各ユニットリーダーが行っている。質問の多くは、重度化し事業所での生活が限界になった時の心配であるが、法人内の別事業所の案内や事業所で看取りも可能である事を伝え、安心感を得てもらっている。介護報酬や加算の変更時は文書で通知し了承を得ている。	
10	(9)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族とは面会や電話の際、また手紙等で意見や要望はないかその都度伺い取り込むようにしている。入居者とは普段の関り時に意向を把握し共有するようにしている。	利用者からは、日常的な内容で「出かけたい」「家族に会いたい」の要望があり、面会依頼や電話等出来る事で対応している。家族からは、利用者の個人的な要望や意見はあるが、事業所の運営に反映するような内容は少ない。家族から墓参りをさせたいとの要望があり検討中である。	
11	(10)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日頃から個別での意見や会議で情報交換をするなど思いを伝えられる機会を設けており、また年2回の面接を利用するなど話しやすい機会もある。	職員からは、イベントや外出の機会の提案や、プランターで野菜や花を作ってはとの意見があり、中庭でキュウリやトマト、ナスやスイカ等夏野菜を栽培し、利用者は日々「花が咲いた」「キュウリがなっとる」等、利用者と職員の楽しみにもなっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	日々の業務の中で適宜相談しやすいよう振る舞い、意向の把握や状況報告に努めている。少しでも働きやすいよう勤務調整はしているが、環境づくりまで反映しきれていない。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実践と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修参加により知識の向上や再確認につなげている。また人事考課制度を設け、各職員の目標や役割の確認をし、アドバイザーをしながら自身も学んでいる。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市内の連絡会を2か月に一回開催し意見交換の場がある。その中で合同研修会等も実施し、他施設の職員同士の交流により相乗効果につながるようにしている。		

自己 第三	項 目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居時には入居者の思いや不安的要素を把握し、極力家にいるときと変化が少なくてすむよう生活の様子を伺ったり、家族からも話を伺っている。	
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	情報だけでなく家族の意向も伺い、色々な思いを伺いながら不安解消に努めていく関りをしている。その場だけでなく、何かあれば気軽に電話対応にも応じている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	事前に情報収集し、必要としているサービスが適切に行われるよう心身の状態や意向を伺い、安心して入居に至るよう配慮している。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	身の回りのことでできることは声掛けや環境設定で自身で行えるように工夫している。一緒に取り組むことで会話しながら関係性を築けるようにしている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月家族に日頃の様子が伝わる手紙を送り、入居者の思いも綴っている。イベントごとに手紙を依頼し、つながりが保てるように配慮している。衣替えには足を向けてもらえるよう依頼している。	
20	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍の延長のまま未だ外出や面会が緩和しきれておらず、自由な行き来が今後の課題である。	コロナ5類移行後は、人数や時間の制約はあるものの徐々に緩和され、居室での面会が可能となり利用者は楽しみに待っている。希望すればいつでも来てくれる散髪屋さんがあり、新しい馴染みの関係ができています。食事の提供業者の、目の前での握り寿司や和菓子作りの手さばきを見ながら楽しんで味わうこともある。
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者のみでの関りが叶う方は少なく、それ以外の方は職員が介入し関係づくりや橋渡しを担い関りが作れている。気持ちに配慮し居心地の良い居場所づくりに努めている。	

自己	者第三	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居等により契約終了となっても、可能な限りその後の相談やフォローをする体制は常に整えている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日頃の会話のやりとりや行動パターンから情報収集し意向の把握につなげている。家族に会いたい、帰りたい等の希望が度々聞かれ、可能な事は面会を促したりと対応している。	重度化に伴い、しっかりと意思疎通のできる利用者はだんだん少なくなっているが、少しでも利用者本人が選択出来る機会を尊重している。行事食などは利用者の希望を聞き取り、握り寿司の実演や和菓子の作成過程体験を実施した。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族や関係各所から得た情報から会話を広げ、本人との話題作りや今までの生活の様子の把握に努め、ここでの生活に活かせるようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の関わりの中で心身の変化の他に、言動の細かな変化や本人の嗜好、出来ない事だけでなく出来ることの発見等を日々記録に残し共有している。		
26	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	家族には手紙や電話、受診時や面会時に現状報告や医師とのやりとりを報告し、意向を伺ったりする機会を作っている。会議や日頃の情報交換の際に情報収集し、ユニットごとに担当者が作成している。	モニタリングは担当者が月に1回実施している。6か月毎の計画作成更新の際には、毎月のユニット会議での情報を集約・参考として作成されている。日頃から看護師も含め詳細な意見・情報の共有ができています。サービス担当者会議の位置付けがユニット会議として充当されている。	サービス担当者会議の記録作成・内容を工夫することが望まれる。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	支援内容に沿った日々の記録を残し、変化が分かるようにしている。気になる発言や行動など継続的に把握し共有することで、家族や主治医に伝えられるようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の様々な要望に対し、その都度検討し意向に合った支援が極力行えるように努めている。コロナ禍においては我慢を強いてしまう事の方が多かった。		

自己	者	第三	項 目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29			○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の各種機関との連携や協力のつながりを保ち、協力が得られるよう努めているが、近年交流や接点がつくれなかった。		
30	(14)		○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前から変わらない主治医の場合と、入居後に家族や本人の体調を理由に変更された方もいる。受診は基本家族に依頼しているが、日頃の様子や報告や相談ができるよう連携をとっている。	利用者・家族は契約時にかかりつけ医か協力医を選択できる。基本的に受診は家族であるが、やむを得ない場合には事業所職員が代行することもある。受診時の情報は共有できている。急変時などの対応は協力医・看護師への相談・指示が速やかに得られる仕組みがある。	
31			○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	何かあればすぐに相談し助言がもらえる状況にあり、日々の体調把握や薬管理など適切な支援が受けられるようにしている。		
32	(15)		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時は病院や家族とも適宜連絡を取り、状態の把握や早期の退院の運びになる様三者の調整を行っている。	数か月前、持病による3週間程度の入院事例があった。地域連携室及び面会の家族からの本人情報は詳細に得られ、退院前カンファレンス情報も共有できた。退院の際は家族と共に協力体制をとるようにしている。（入院事例は少ない）	
33	(16)		○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時の説明に加え、状態の変化に伴い本人や家族が望むあり方を把握し、病院や特養との連携も取り、どのような変化にも対応できるようにしている。	契約時に重要事項説明書等で詳しく説明をしている。重度化や終末期における受け皿があることで、多様な選択肢がある。相談ができて選べるのが家族にとっては安心感がある。法人内施設の選択や外部施設への移行なども含め、柔軟に対応が出来ることを丁寧に説明し納得を得ている。	
34			○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時の為の知識や対応方法、連絡体制など改めて確認する機会や実践力につながるよう研修会を設けている。		
35	(17)		○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地震や火災を想定した避難訓練は年2回実施し、避難や操作の手順を確認する機会を設けている。近隣住民との実践的協力体制も今後は考慮していきたい。	ハザードマップでの防災指定地区ではないが、停電時や日中・夜間の火災発生想定訓練は年に2回実施できている。法人、グループホームともに災害時用発電機が設置された。災害備蓄品については法人管理されている。近隣との協力体制はできていない。	近隣住民との関わり強化を求めて、まずは避難訓練への参加の呼びかけをしてはどうか。また、グループホーム単体での災害備蓄品の管理が必要ではないか。

自己 第3	項 目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	(18) ○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	会議や研修で不快に感じる言葉かけや対応方法を再確認し、どう工夫して回避するか等意見交換や自身の振り返りをしている。	毎月のユニット会議で、利用者への声掛けについて議題として取り上げられる頻度は高い。気にかかる声掛けなどは介護課長がリアルタイムで注意する機会もある。職員間での相互注意には至っていない。	
37	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定できる方が少ない中で、選択肢を並べたり質問の仕方を変えたり、反応で読み取ったりと試行錯誤しながら行っている。普段の表情や発言を気にかけて見るようにし、希望の把握につなげている。		
38	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日課をベースに個々の気分の変化に合わせてられる様、幅のある言葉かけを意識し融通の利く関わりに配慮している。		
39	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自身で可能な方は自由な選択で、支援が必要な方も普段から身だしなみには気を使い、気持ちよく清潔でいられるよう配慮している。		
40	(19) ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	令和になってから介護食の委託に変更し、現在は一緒に作る機会がない。その代り、食後の片付けを一緒に行ったり、おやつ作りなどでは一緒に準備や作成をするようにしている。	米飯は台所で炊飯している。利用者の満足度などの聞き取りを行っており一部、委託分を変更する計画がある。プランターでの収穫野菜で浅漬けを提供したりしている。手作りおやつは2～3か月に1度実施している。	おやつ作りの頻度を増やし定期的に実施することを期待している。
41	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	摂取量の把握だけでなく、食事形態や摂取の状況、食器の変更にも目を向けている。場合によっては時間帯をずらしたり嗜好品の提供など状態に応じて対応している。		
42	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後の歯磨きの声かけや準備など支援し、介助や支援が必要な方は毎回ついて実施している。義歯の具合の確認、口腔内の様子を見聞きし把握につなげている。		

自己	者 第 三	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(20)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	定期的にトイレの声かけをする事でパターンの把握につなげ、排泄用品への失敗が減らせるよう努めている。布パンツに戻す対応も実践している。	排泄表に基づいた声掛けや誘導により、パッドの使用数の減少や布パンツへの移行の成功例がある。各居室にトイレがあり職員が関わりやすい環境がある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	乳製品をとる頻度を増やしたり、下肢運動を取り入れた体操を重点的にしたりと予防につながる工夫はしている。		
45	(21)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	毎日午前午後と入浴時間の枠はあるが、個々の希望時間やタイミング、体調に合わせて前後したり日を変えたり、要望に添えるようにしている。	利用者本人の希望に沿うように実施している。1日に3～4名の入浴予定を組んでいる。声掛けなどの工夫もしているが直前で希望変更になることもある。午前・午後入れ替えや曜日変更などには柔軟に対応するようにしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	疲れや眠気が見られたり、体調や個々の生活習慣にあわせ、本人の様子や意向を聞きながら休息時間を設けている。気分の変動に応じて安心できる場所に誘い気持ちが落ち着くような支援もしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	変更時は皆が把握できるよう記録や口頭で伝達していき、その後の変化等を記録に残し報告、相談できるようにしている。またチェック体制を段階的に行い、確実な服薬支援につなげている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	花や野菜作り、おやつ作り、散歩、編み物等の作品づくりや脳トレなど各々の得意や好きな事を取り入れ少しずつ実践している。洗濯たたみや干したりなど出来ることは環境を整え取り組まれている。		
49	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍の延長から未だ面会や外出が完全緩和に至らず、外出においても自由に出かけられていない現状であったが、徐々に出る機会は作れてきてはいる。	昨年8月にコロナ感染例があり法人として全面解禁となっていないため、ある程度の制限は継続している。面会については居室内で出来るようになったが面会者数は少ない。広い敷地内の散歩や外出支援、コロナ以前にできていた買い物や祭りへの参加などの再開を計画している。	

自己	者	第三	項 目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50			○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在はお小遣いを持っている方はいないが、以前は自身で管理している方もいた。希望品においては立て替え購入をしている。		
51			○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話を使用する方は最近ではないが、手紙やハガキを書いて送るための購入や出す支援は今でも行っている。希望があれば応じる。		
52	(23)		○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感のある掲示をし、歩きながら眺められるようにすることで会話のネタにもなっている。また中庭の花を見ながら過ごす事も出来る。	施設内での生活時間が長いと季節を感じられるよう配慮している。平面ユニットでもあり室内は広々とし「木の香」その名の通り、ふんだんに使用されている木材の香りが満ちて開放感がある。広い廊下と共に共用部は掃除が行き届き清々しい。中庭にはミニ菜園で野菜の収穫や花の手入れをし自然に触れ話題に事欠かない環境である。	
53			○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下にソファやベンチ、椅子を配置しユニット間を超えその時の気分で好きな場所で休憩や談話をして過ごせるようにしている。静かに独りの時間を過ごしたい人も特定の場所があったりと配慮している。		
54	(24)		○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時よりなるべく使い慣れたものの持ち込みを促しており、本人と家族でセッティングしてもらっている。体の状態に合わせた環境設定や配置換えが必要な場合は、本人や家族にも意向を伺いながら実施している。	家族・孫さんからの手紙や手作り作品が飾られている。身体状況に即したベットの配置や居室のレイアウトも、それぞれが過ごしやすい配慮がされている。収納がすくない点を壁収納のアームなどで工夫している。	
55			○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自身の生活習慣や身体状況に合わせ、分かりやすい目印や貼り紙で一人でも取り組みやすく、安全な環境の中で過ごして頂けるよう工夫している。		

(様式2)

事業所名:グループホーム緑風の郷木の香

目標達成計画

作成日:令和6年7月1日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。

目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先 順位	項目 番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に 要する期間
1	1	施設の理念、共通認識はあるが、事業所独自の理念がない。	事業所独自の理念を掲げる。	・職員で検討し、職員に浸透するよう見える場所に掲げる。	12か月
2	3	推進会議で出た意見は、参加者しか内容が分からない。	職員、家族、入居者にも参加してもらい、現状を家族にも知ってもらう。	・担当者のみでなく他の職員、入居者にも順番に参加してもらう。 ・別紙は中止し、一枚ものにまとめる。 ・会議後、家族、全委員に議事録を送る。	12か月
3	8	権利擁護に関する研修をする。	権利擁護の研修会を行う。	・推進会議を活用し、市の職員に講師依頼し研修の実施につなげる。その後、伝達研修の実施。	12か月
4	26	サービス担当者会議が実施できていない。	サービス担当者会議を実施する。	・ユニット会議を利用するなど、個別の会議を開催し、記録に残す。	12か月
5	35	災害対策として、地域との協力体制の実績がない。また独自の備蓄保管に至っていない。	・地域と合同避難訓練を計画する。 ・独自で災害備蓄品の管理をする。	・年2回の避難訓練の際に、地域との合同訓練も計画する。 ・独自に災害備蓄品を管理する。	12か月
6	40	食事作成に関する支援の頻度が少ない。	おやつ作りの頻度を増やす。	毎月1回は機会を作り、準備や作成を行ってもらう。	12か月

注)項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。

(様式3)

サービス評価の実施と活用状況(振り返り)

サービス評価の振り返りでは、今回の事業所の取り組み状況について振り返ります。「目標達成計画」を作成した時点で記入します。

【サービス評価の実施と活かし方についての振り返り】		
実施段階		取 り 組 ん だ 内 容 (↓ 該当するものすべてに○印)
1	サービス評価の事前準備	☐ ①運営者、管理者、職員でサービス評価の意義について話し合った
		☐ ②利用者へサービス評価について説明した
		☐ ③利用者家族へサービス評価や家族アンケートのねらいを説明し、協力をお願いした
		☐ ④運営推進会議でサービス評価の説明とともに、どのように評価機関を選択したか、について報告した
		☐ ⑤その他()
2	自己評価の実施	☐ ①自己評価を職員全員が実施した
		☐ ②前回のサービス評価で掲げた目標の達成状況について、職員全員で話し合った
		☐ ③自己評価結果をもとに職員全員で事業所の現状と次のステップに向けた具体的な目標について話し合った
		☐ ④評価項目を通じて自分たちのめざす良質なケアサービスについて話し合い、意識統一を図った
		☐ ⑤その他()
3	外部評価(訪問調査当日)	☐ ①普段の現場の具体を見てもらったり、ヒアリングで日頃の実践内容を聞いてもらった
		☐ ②評価項目のねらいをふまえて、評価調査員と率直に意見交換ができた
		☐ ③対話から、事業所の努力・工夫しているところを確認したり、次のステップに向けた努力目標等の気づきを得た
		☐ ④その他()
4	評価結果(自己評価、外部評価)の公開	☐ ①運営者、職員全員で外部評価の結果について話し合った
		☐ ②利用者家族に評価結果を報告し、その内容について話し合った
		☐ ③市区町村へ評価結果を提出し、現場の状況を話し合った
		☐ ④運営推進会議で評価結果を報告し、その内容について話し合った
		☐ ⑤その他()
5	サービス評価の活用	☐ ①職員全員で次のステップに向けた目標を話し合い、「目標達成計画」を作成した
		☐ ②「目標達成計画」を利用者、利用者家族や運営推進会議で説明し、協力やモニター依頼した(する)
		☐ ③「目標達成計画」を市町村へ説明、提出した(する)
		☐ ④「目標達成計画」に則り、目標をめざして取り組んだ(取り組む)
		☐ ⑤その他()